

コラム 土研新技術ショーケース 2014 における新たな取組み

東京開催(9月)では、頻発する自然災害やインフラの老朽化等の問題を踏まえ、“国土とインフラの安全・安心”をテーマに設定しましたが、その中で新たな取組みとして、「伊豆大島土砂災害と土砂災害危険度の把握技術」という特別カテゴリを設け、前年度最大の災害を具体的事例として解説しながら、関連する土研開発技術を紹介しました。特に、ショーケース開催前の8月には広島市において甚大な土石流災害が発生していたこともあって、参加者の関心の高さが伺え、アンケートでも聴講された方の約9割以上が「大変有意義であった・有意義であった」と評価し、また、「避難行動の定量的評価が参考になった」との意見も寄せられるなど、大変好評でした。

さらに、東京での展示・技術相談コーナーについては、建設技術審査証明協議会が主催する「平成26年度建設技術審査証明 新技術展示会」と連携し同会場で実施したところ、集客の相乗効果で、昨年度より60名程度多い381名の参加者に関心を持って参加いただけました。

また、新潟、大阪、札幌などの地方開催においては、開催地の道府県をはじめ政令市、阪神高速道路(株)との連携を強化し、新たに後援や講演技術の希望調査、ショーケース前日に開催している意見交換会への参加などの協力を得ながら実施しました。この結果、すべての開催の合計で昨年度を上回る約1,210名の参加者を獲得することができ、多くの技術者に土研の開発技術を知っていただくことによって活用・普及につなげることができました。

今後も研究開発成果の最大化に向け、本ショーケースの内容の充実や改善等を重ねるとともに、各方面との連携を深め関係各機関等への周知を積極的に行うことで、さらに多くの技術者等の参加を促し、土研の研究成果や開発技術を社会資本の整備や管理に活用してもらえよう努めたいと考えています。



写真-1 1st展示の状況(東京開催)



写真-2 大阪府や阪神高速道路(株)も参加した意見交換会の様子(大阪)